



## コラム

## ロゴマーク

業務改善委員会委員 経営企画室 堀 明子

この「QIニュース」の左上にありますロゴマーク。  
これは2013年の「QIニュース」創刊号発行時にQI (Quality Indicator・Improvement=医療の質指標・改善の略) を身近に感じてもらおうと職員の門間さんが考案してくれました。

そして、裏面の左上にありますロゴマーク。これは全日本民医連QI公開・推進事業(以下QI推進事業)の目的を示すマークとなっています。

医療の質を評価する3つの側面である「Structure」「Process」「Outcome」を円で表し、中央に「QI」とおいて特にProcess評価が「QI」の中心となる意を込めてProcessの円を最前面に大きく配置。土台にあたる位置に「Min-iren」と記し、組織として広く取り組み、支えていくことを象徴しているそうです。

QI推進事業は今年で8年目になります。全日本民医連で提示された条件をもとにした指標を事業参加病院が毎月算出後、QI・Webシステムに登録して提出します。

Webシステムでは指標ごとに民医連病院のベンチマーク結果が一覧やグラフなど「みえる化」が簡単に可能となっています。

指標の算出は経営企画室を中心に今回裏面掲載の転倒転落発生率は医療安全対策室からと各関連部門から毎月提出いただいています。

昨年はさらなるQI推進事業ステップアップのため、「民医連QI推進士」養成セミナーが開催されました。37県連から112人が参加。当院からは私堀が参加させていただきました。(全日本QI委員会副委員長であります富山先生と同じ班でした！)

セミナーでは

医療の質を可視化する指標を設定・測定し、運用できる力を身につけること

指標の測定結果を分析・評価し、適切にフィードバックできる力を身につけること

という目標で、グループワークや演習を行いました。

・・・あれから数ヶ月。なかなか実践できていませんが、まずはできることからということで、このQIニュース裏面にベンチマーク結果など紹介していきたいと思います。

そして、来年はいよいよ医療機能評価更新の年。評価項目の中には「診療の質向上に向けた活動の取り組み」として「臨床指標に関するデータの収集・分析」などが掲げられています。いろいろな場面で指標を活用した改善の実績ができるよう努めていければ幸いです。



## シリーズ“統計のはなし” No.3

3回目は引き続きグラフがテーマです。今回は棒グラフと折れ線グラフに焦点を当てます。

グラフを作るとき、棒と折れ線はどちらも同じじゃない？という方もいるでしょう。しかしそれぞれは

- 棒グラフは量の大小を比べる
  - 折れ線グラフは増減を比べる
- ために使うグラフなのです。

例えば、好きな食べ物は？と聞いた結果を比べたいとき、食べ物ごとの件数を比べるので棒グラフを使います。

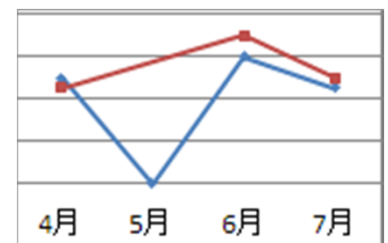
一方、ガソリンの料金のデータであれば、金額の大小ではなく、10円差などの増減に興味があるので、折れ線グラフが向いています。身近な例でどちらを使うか考えてみましょう。

最後に、それぞれのグラフで気をつけたいことを紹介します。

棒グラフでは、必ず原点(ゼロ)を含めましょう。例えば、99件と90件の差を強調したいからといって軸を80件～100件の範囲にしていけません。どうしても強調したいときは折れ線グラフを使いましょう。

折れ線グラフでは、データがない箇所をとばして前後の点を線で繋げましょう。下図の2つのグラフはどちらも5月のデータがないのですが、青のようにデータがない箇所を0としてしまうと変化が大きく見えて間違った印象を与えています。

(Excelでは5月の欄に#N/Aと書くと赤のようなグラフを書けます)



【参考】統計をグラフにあらわそう  
(種類と特徴): <http://goo.gl/K5zwz>

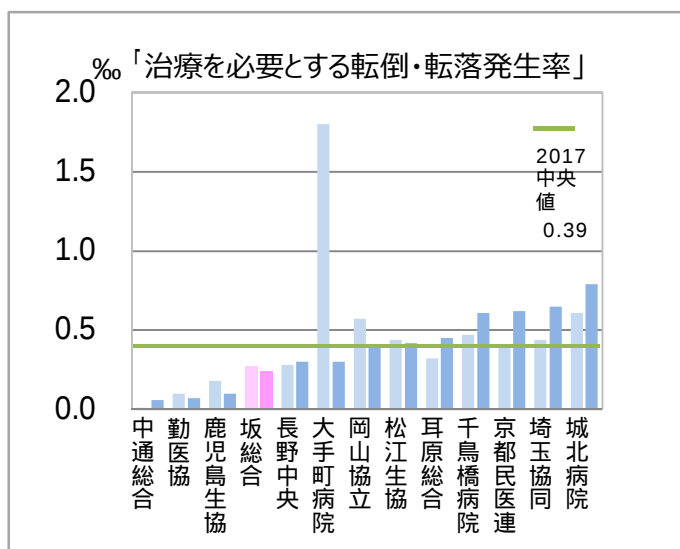
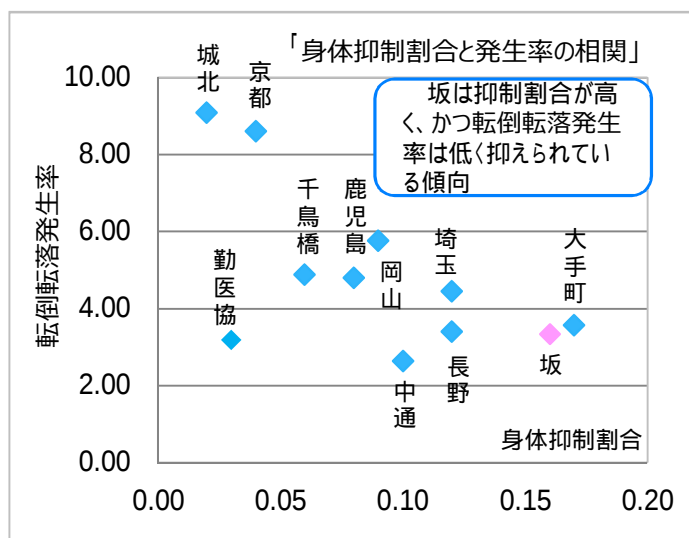
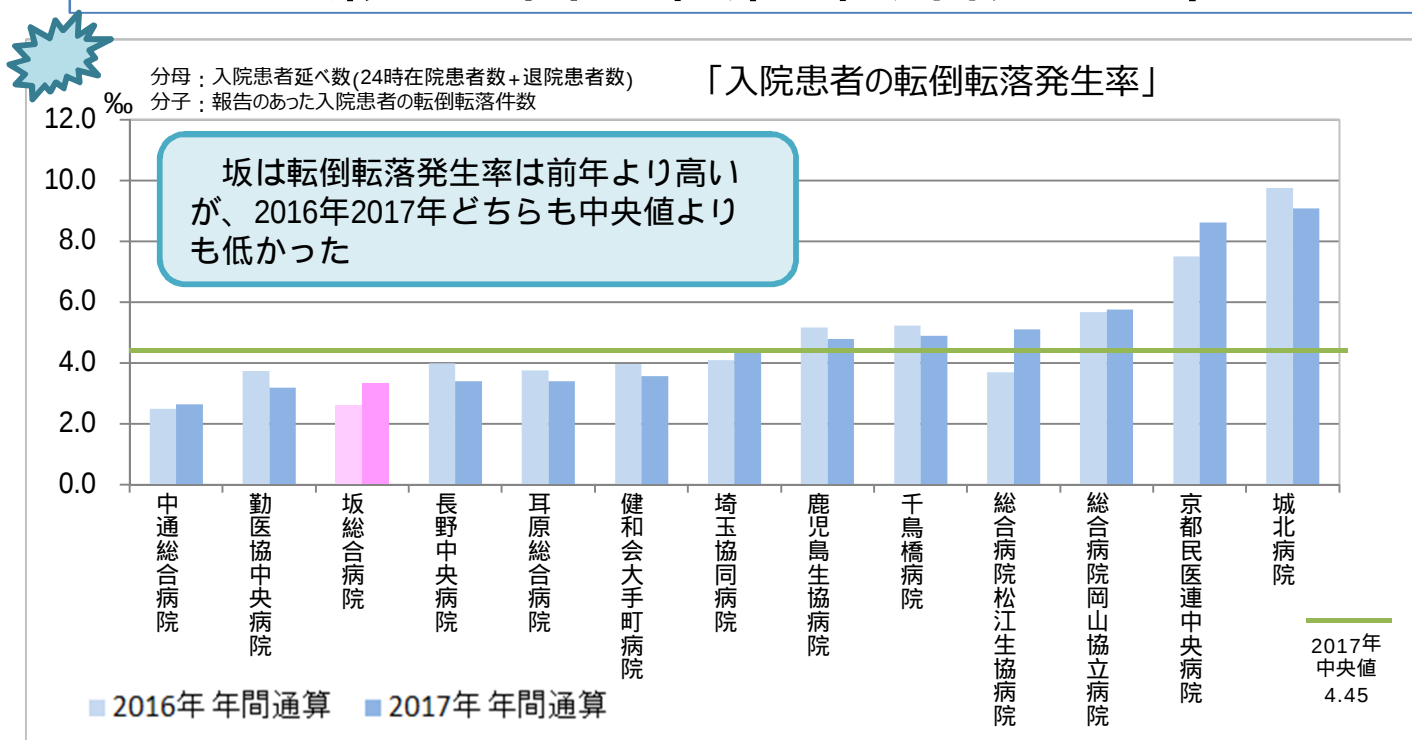
「コラム」は業務改善委員会の委員の中で持ち回りで掲載していく予定です。

裏面は今回「入院患者の転倒転落発生率」についてです。是非、ご覧ください。



毎号 1 つの指標についてベンチマーク結果や時系列の推移など紹介していきます。

# 入院患者の転倒転落発生率



病棟別月別転倒転落数

